

令和2年度 社会福祉法人慈照会事業報告

通常規模型通所介護事業
認知症対応型通所介護事業
短期入所生活介護事業
訪問介護事業
居宅介護支援事業
介護老人福祉施設事業
ケアハウス事業

令和2年度社会福祉法人慈照会事業報告

1. 総括

当該会計年度のわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大の状況下において、4月～5月の全国的な緊急事態宣言、年明けの一部都府県の2回目の緊急事態宣言等、ワクチン接種が進まない中、ウイルスの変異もあり、継続してウイズコロナへの対応が求められ各業種によって大きな収益格差が生じ、雇用、所得環境、個人消費に大きな影響を及ぼした。

当法人では、日々大変重い責任と緊張状態が続く中、新型コロナ対策は最重要課題となり、施設内感染防止のための環境整備、様々な感染対策機器の設置と消耗備品の確保等を進めた。利用者、職員の発症を想定した対応についても、情報を更新しながら継続して見直した。

各種団体の活動として、8月の県内最大の特養クラスター発生時には役員として派遣をコーディネートし応援職員を1名派遣した。滋賀県新型コロナ感染症発生時の応援体制構築会議に参画し、応援事業の仕組みづくりを進めるとともに、東近江圏域地域事務局として、東近江圏域の新型コロナ感染症にかかる介護サービス継続会議等を8回実施し、各行政機関等と応援体制整備を着実に進めた。

介護人材の確保では、従来にない時間と資金を費やして、リクナビ、リクナビNEXT等の就職ポータルサイトを活用しノウハウを蓄積しながら、オンラインの職場説明会、インターンシップの体制を整備し、新たな人材との接点を作ることができた。職員の業務負担軽減のため、Wi-Fi インカム、眠りスキャン（ベッド上の見守り機器）の増台等、テクノロジーの積極的な導入を進めた。また、コロナ禍において、オンライン会議・研修体制も整備した。職場環境の改善のため、修繕及び備品の更新も進めたが、コロナ禍の影響により一部予定通り進められなかった。職員交流会がすべて中止となったが、委員会を中心に、全職員に夏ギフト・冬ギフトを贈る企画を実施してもらい、職員の気持ちを癒す機会を作ってくれたのは良かった。

公益的な取り組みについては、羊の飼育による地域の憩いの場の提供はできたが、サロン支援はコロナ禍の影響によりほとんど派遣がなかった。滋賀社会福祉研究に、当法人の地域の公益的な取組に係る奨励賞レポートが掲載されたのは、今後の励みになる名誉なことであり、新たな取り組みを含めて継続していきたい。

4月より短期入所の看護体制加算・夜勤職員配置加算、介護老人福祉施設の夜勤職員配置加算を取得し収入増を進めた。新型コロナ禍の大変厳しい年であったが、感染対策を徹底し各事業所の利用者については、安定的に確保できた。

1年を通じて、新型コロナウイルス感染の発生もなく乗り切れたことは、一つの大きな成果であり、職員一人一人の懸命な努力に心から感謝するとともに、今後の飛躍につなげたい。

2. 事業別報告

【通常規模型通所介護事業】（定員：30名）

介護予防を含む一日平均利用者数は28.6名（昨年比108.7%）となり大きく伸びた。

重点目標： 職員の介護技術を向上し質の高いサービス、安心・安全なケアの提供を目指す

施設内外の研修に参加し、内容を職員間で共有する。定期的な勉強会を実施し、職員の質の向上に努める。新人職員のための育成プログラムを作成する。

結果： 定期的な勉強会はコロナ禍も影響し行えなかったが、情報・処遇の共有を行い、安心、安全なケアを実践できた。プログラムは未作成となった。

【認知症対応型通所介護】（定員：12名）

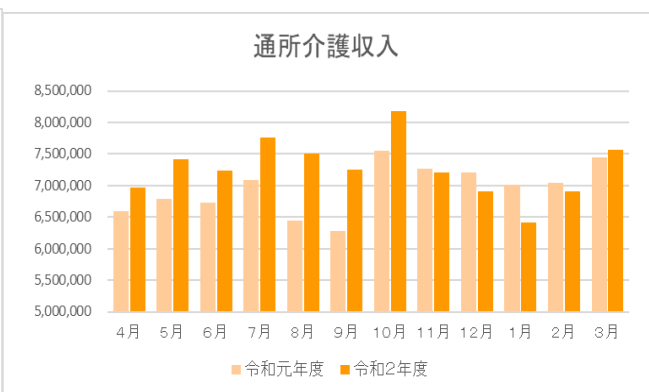
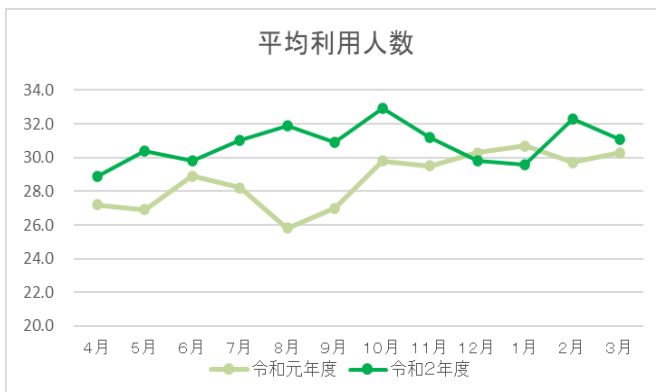
一日平均利用人数は2.2名（昨年比100%）となった。

重点目標： 認知症ケアの向上を目指す

勉強会の実施や認知症基礎研修に参加し、認知症ケアの質を向上させて、利用人数増に結び付ける。

結果： 勉強会の実施、認知症基礎研修の参加はコロナ禍の影響もあり進まなかった。認知症ケアの質向上により、利用者数増には結び付けることはできなかった。

	営業日数	利用実人員	新規利用者	一日平均利用人数			
				介護予防	通常規模	認知症対応	合計
4月	26	85	4	1.5	25.3	2.1	28.9
5月	26	83	2	1.6	26.4	2.4	30.4
6月	26	84	3	1.6	26.0	2.2	29.8
7月	27	87	5	2.3	26.4	2.3	31.0
8月	26	92	3	2.7	26.9	2.3	31.9
9月	26	83	0	1.8	26.8	2.3	30.9
10月	27	88	2	2.3	28.2	2.4	32.9
11月	25	89	2	2.6	26.7	1.9	31.2
12月	26	85	2	2.8	24.8	2.2	29.8
1月	24	84	1	2.7	24.7	2.2	29.6
2月	24	88	3	2.8	27.5	2.0	32.3
3月	27	88	1	3.3	25.7	2.1	31.1
	310	1036	28	2.3	26.3	2.2	30.8



【短期入所生活介護事業】（定員：16名）

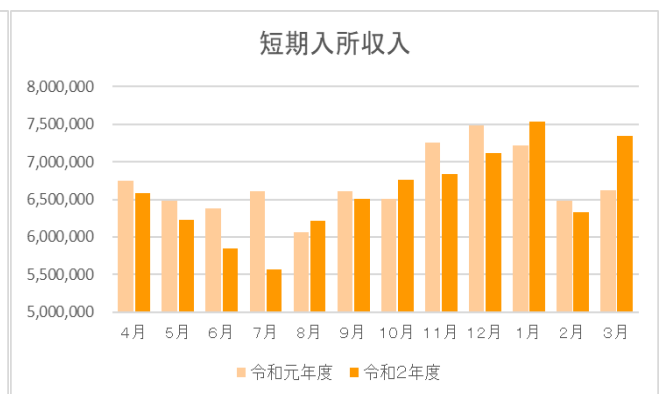
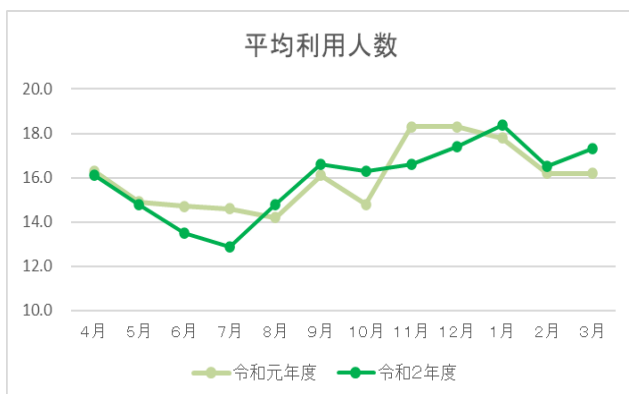
コロナ対策のため特養との分離体制により入院ベッドの活用ができない中、緊急性の高い長期利用の方（措置含む）を積極的に受入れ、一日平均利用者数は15.9名（昨年比99.3%）となった。

重点目標：介護ロボット・ICTの活用および研修への参加

介護ロボット・ICTの活用、検証を行うことや研修への積極的な参加により利用者・職員の満足度を上げて、業務の効率化を図る

結果：インカムの導入により、利用者の情報をリアルタイムで共有し、職員を探す手間もなくなり動線が短くなったことで身体的な負担が減った。また、インカムによるコミュニケーションが進み、職員同士のチームワークにプラスとなり、協力し合って業務にあたるようになった。利用者・職員共に満足度が上がり、業務の効率化につながった。業者からの状況提供やオンライン研修に参加し情報収集に努めた。

月	新規利用者	利用実人員	一日平均利用人数	ベッド稼働率（%）
4月	1	67	16.1	100.4
5月	4	67	14.8	92.3
6月	3	69	13.5	84.3
7月	5	64	12.9	80.8
8月	6	66	14.8	92.5
9月	1	64	16.6	104.0
10月	3	68	16.3	101.6
11月	3	68	16.6	103.8
12月	3	67	17.4	108.5
1月	6	72	18.4	115.1
2月	1	65	16.5	103.3
3月	2	72	17.3	108.3
	38	809	15.9	99.6



【訪問介護事業】

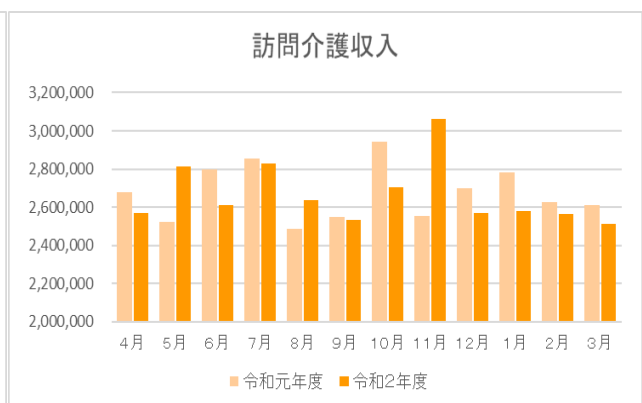
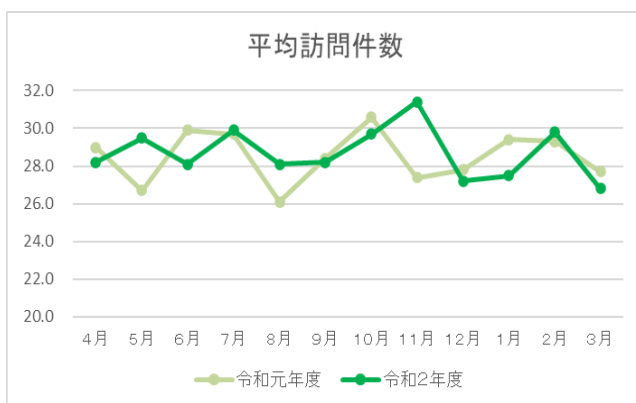
1日平均延訪問件数は、28.7件（昨年比100.3%）となった。

重点目標：ご利用者の人生の困難な時期に関わる意識を持ったサービスの提供の実施

その人らしい普通の生活を安心安全に過ごしてもらうため、常にきめ細かく対応し、幸せを感じてもらえるようなサービスを提供する。他の事業所、職種との連携に努める。

結 果：重篤な利用者や困難ケースも多く、利用者の入れ替わりが激しく利用状況の変化も多くある中、困っている方への要望に応じてきた。個性豊かな利用者の方々を尊重し、日々の利用者の変化を速やかに周知してきた。コロナ禍の中、感染がなく安堵している。

月	第1号訪問事業		訪問介護事業		第1号訪問+介護		一日平均 延訪問件数
	利用実人員	延訪問件数	利用実人員	延訪問件数	利用実人員	延訪問件数	
4月	10	54	47	791	57	845	28.2
5月	10	49	46	864	56	913	29.5
6月	9	50	47	792	56	842	28.1
7月	9	52	55	875	64	927	29.9
8月	9	52	54	818	63	870	28.1
9月	9	47	43	798	52	845	28.2
10月	10	56	44	864	54	920	29.7
11月	10	54	50	889	60	943	31.4
12月	10	53	45	791	55	844	27.2
1月	10	55	48	798	58	853	27.5
2月	12	52	50	782	62	834	29.8
3月	11	58	43	774	54	832	26.8
	119	632	572	9836	691	10468	28.7



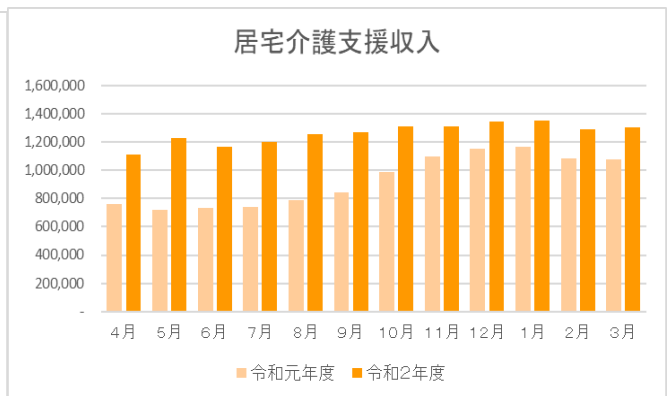
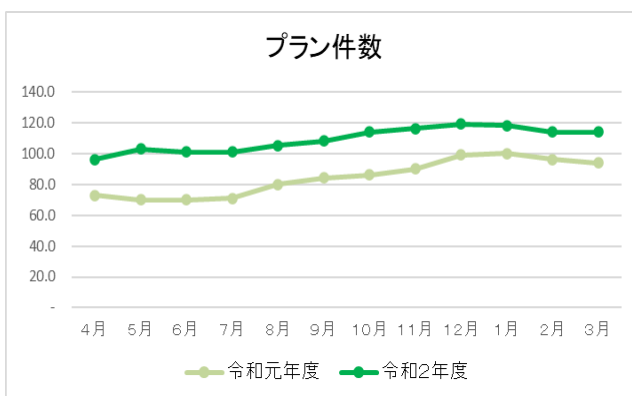
【居宅介護支援事業】

ケアマネ3名体制が定着し、新規利用者33件（昨年比84.6%）、平均プラン件数は109.1名（昨年比129.4%）となり大きく増えた。

重点目標： 地域での生活から看取り期までのケアマネジメントプロセスを重視した計画作成
実務研修のケアマネジメントプロセスに則った担当者支援、書類・ファイルの整理がなされ、担当者の事業所内での密な情報共有が図れるよう努める。

結 果： 部署内で朝礼時に担当者の情報共有を図り、即座の対応が図れるように務めた。件数も順調に伸び、3名の受け持ち平均件数が40人に近づいた。ただ、予防支援者が多いこと、情報共有の方法で不統一が見られた年であったため、課題として活かしていきたい。

月	新規利用	事業対象	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	1	1	14	15	30	15	10	9	2	96
5月	4	1	15	14	31	18	11	10	3	103
6月	3	1	16	14	29	18	11	10	2	101
7月	3	0	17	13	29	20	11	9	2	101
8月	5	0	16	15	31	20	12	9	2	105
9月	1	1	17	15	33	20	12	8	2	108
10月	6	3	19	16	33	21	11	9	2	114
11月	2	4	19	17	33	22	12	7	2	116
12月	2	3	20	18	34	22	12	7	3	119
1月	3	3	18	18	34	23	12	7	3	118
2月	2	2	18	19	35	20	11	6	3	114
3月	1	3	17	19	36	18	12	6	3	114
合計	33	22	206	193	388	237	137	97	29	1309
月平均	2.8	1.8	17.2	16.1	32.3	19.8	11.4	8.1	2.4	109.1



【介護老人福祉施設事業】（定員：54名）

入院者が少なく退居も3名で非常に少なかった。平均在居者数は51.9名（昨年比108.1%）となり、昨年より大きく改善した。

重点目標：現場に合った福祉用具の有効活用を図ることで業務効率化、事故防止に繋げる

職員個々が感じている日頃のニーズ、入居者ニーズを明確にし、介護負担の軽減、安全安心なケアを具体化する。新しい人材が従事しやすい環境の整備とともに、事故の防止を進める。現場に合った福祉用具とは何かを探り、業務の効率化、省力化を目指す。

結果：年度初めから、コロナ感染拡大防止対策に追われる毎日であった為、各委員会活動や職員個々からのニーズの集約による福祉用具推進は、職員への意識づけが上手くいかず、十分に進まなかった。下半期に重大事故が発生し、福祉用具推進の意義を改めて痛感した。

令和3年3月31日現在

入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
入居	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
退居	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
在籍者数	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54
在居人数	50.4	52.0	52.6	52.2	53.0	50.8	51.0	50.7	52.1	53.1	52.9	52.4	51.9

入居者年齢状況

	男性	女性	全体
最高年齢	93	104	104
最低年齢	74	73	73
平均年齢	83.3	87.9	87.4

年齢	男性	女性	計	構成比 (%)
70～74歳	1	2	3	5.6
75～79歳	1	3	4	7.4
80～84歳	1	11	12	22.2
85～89歳	2	16	18	33.3
90～94歳	1	9	10	18.5
95～99歳	0	3	3	5.6
100歳～	0	4	4	7.4
計	6	48	54	100.0

入居者在居期間

	男性	女性	平均
平均在居期間	40.3ヵ月	61.2ヵ月	58.8ヵ月

在居期間	男性	女性	計	構成比 (%)
1年未満	0	3	3	5.6
1年以上2年未満	2	10	12	22.2
2年以上4年未満	2	12	14	25.9
4年以上6年未満	1	6	7	13.0
6年以上8年未満	1	6	7	13.0
8年以上10年未満	0	7	7	13.0
10年以上	0	4	4	7.4
合計	6	48	54	100.0

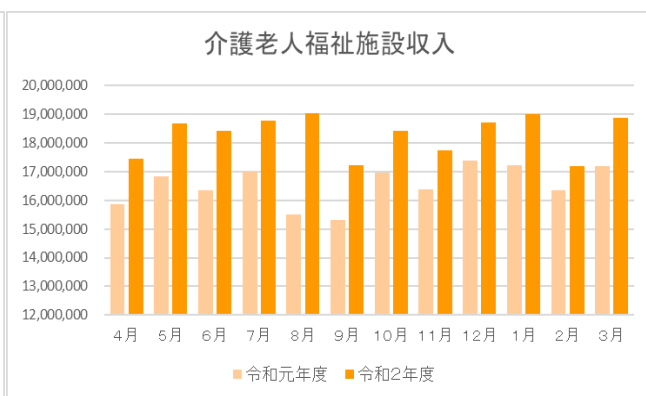
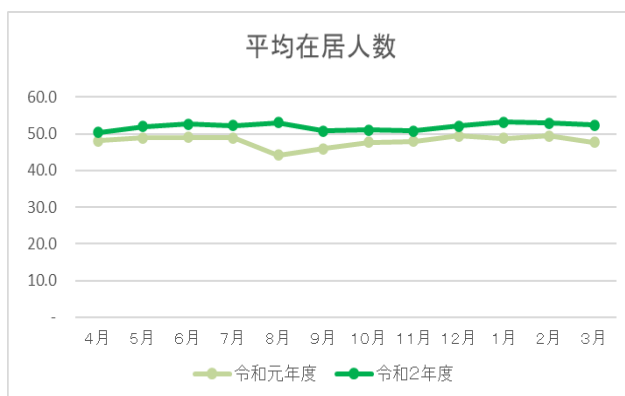
要介護度別入居者状況

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
入居者数	3	6	7	23	15	54
構成比 (%)	5.5	11.1	13	42.6	27.8	100.0

平均要介護度 3.76

待機者数 ※介護保険認定有効期間内の方

要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	4	7	50	72	19	152
構成比 (%)	2.6	4.6	32.9	47.4	12.5	100.0



【ケアハウス事業】（定員：15名）

新規入居者4名、退居者3名であった。入居に関する問い合わせ18件、施設見学8名、申込者7名で、年度末時点で個室待機者8名（4名保留）、2人部屋なしであった。

重点目標：早期満床確保と維持

満床の確保と維持に重点を置く。重度化しても安心して生活できる環境づくりと手厚いフォローを実践する。認知症、精神疾患のある方の理解を深め、楽しみのある生活を追求する。

結果：下半期に入り満床になるが、すぐに退居者が出て減床し、1月に2名入居されるが、安定して満床確保は出来なかった。即入居希望の待機者の確保も思うように進まなかった。現入居者へもコロナの影響は大きく、外出頻度の減少、面会機会の減少等の理由により、メンタルフォローが重要な1年間であった。

令和3年3月31日現在

入退居状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
入居	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	4
退居	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
入居者数	13	13	13	13	14	14	13	13	13	15	15	14	—

入居者年齢状況

年齢	男性	女性	計	構成比 (%)
65歳～69歳	0	0	0	0.0
70歳～74歳	0	0	0	0.0
75歳～79歳	0	1	1	7.2
80歳～84歳	0	1	1	7.2
85歳～89歳	1	4	5	35.7
90歳～94歳	3	2	5	35.7
95歳～99歳	1	1	2	14.2
100歳～	0	0	0	0.0
合計	5	9	14	100.0

最高年齢 男性 96歳 女性 96歳
 最低年齢 男性 89歳 女性 78歳
 平均年齢 男性 93.5歳 女性 88.2歳 全体 90.1歳

平均入居年数

男性	4年9ヵ月	女性	5年9ヵ月	全体	5年5ヵ月
----	-------	----	-------	----	-------

入居者要介護度

介護度	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護5	合計
人数	1	1	1	6	4	1	14
構成比 (%)	7.1	7.1	7.1	42.9	28.7	7.1	100.0

3. その他事業

【配食サービス】

営業日数310日、食数999食（昨年比102.8%）、1日平均3.2食であった。

【新型コロナ対策】

施設内の感染防止環境の整備、外部訪問者・家族面会の制限を実施し、趣味活動を制限し各種行事もすべて中止した。利用者の楽しみを制限することになったが、感染者の発生なく乗り切ることができた。

【消防・防災】

11月に総合訓練（特養、ケアハウス）を1回実施したが、コロナ禍において、人が密になる状況を考慮し訓練をほとんど実施しなかった。防火設備点検は年2回実施した。

【衛生委員会】

新型コロナ禍において、産業医と施設の事情もあり対面を避け、2回のWeb開催のみとなった。

10月	新型コロナウイルス等について	11月	見える化で作業の安全を！
-----	----------------	-----	--------------

【委員会活動等】

（研修教育体制チーム）会議開催数8回

人材確保・定着、職場環境改善のための議論を重ねた。びわこ学院大学職場説明会の内容について検討、若手職員の採用に関わる機会を増やした。法人の中長期的な取組として「若い世代が働きたい魅力的な施設」を目指し、マンダラートを活用し議論を始めた。

（環境整備委員会）委員会開催数6回

1年を通じてコロナ禍において職員交流や親睦を目的とした諸行事は開催できなかった。社会的にも厳しい状況下で、入居者やお客様の生活を支えるために日々頑張る職員一人一人に感謝や慰労の思いを形にして伝えることを目的に「お家で楽しんでいただける選べる贈り物」という内容で、上半期、下半期の2回実施した。

【人事考課制度】

6月に令和元年度下半期評価、総合評価を実施し、「A」評価の職員については、評価賞与、評価昇給、昇格を実施した。マイナス評価の減額賞与も実施した。12月に上半期の評価を実施し、「A」評価の職員については、評価賞与を支給した。マイナス評価の減額賞与も実施した。

【職員研修等】

外部の会議・研修に延べ126名を派遣し、オンライン会議・研修に28名が参加した。施設内の集合研修はコロナ禍において開催せず、DVD視聴や資料配布等での実施に止めた。

※施設内全体研修会

実施日	テーマ	講師等	参加者数
7月6日～19日	新型コロナウイルス感染予防	DVD	71名
11月2日～10日	交通安全研修	DVD	63名

【職員講師派遣等】

日付	内容	派遣人数
10月10日	介護職員初任者研修（人権と尊厳を支える介護・自立に向けた支援）	1名
10月12日	滋賀県介護支援専門員研修専門課程Ⅱ事例演習	1名
10月17日	介護職員初任者研修（介護保険）	1名
10月21日	主任介護支援専門員更新研修Aコース	1名
10月29日	ケアプラン点検アドバイザー派遣	1名
11月12日	ケアプラン点検アドバイザー派遣	1名
11月21日	介護職員初任者研修（生活と家事）	1名
11月21日	外国人介護職員養成研修（介護保険）	1名
11月29日	介護職員初任者研修（整容に関連したところからだのしくみと自立に向けた支援）	1名
1月14日、22日 2月3日	滋賀県主任介護支援専門員指導者養成研修	1名
1月30日	介護職員初任者研修（介護課程の基礎的理解他）	1名
1月30日	介護支援専門員実務研修「居宅サービス計画等の作成」	1名
1月31日	介護職員初任者研修（総合生活支援技術演習）	1名
1月（3日間）	介護支援専門員実務研修ファシリテーター	1名

【実習生、ボランティア受け入れ】

コロナ禍により1年を通じて、受け入れをすべてストップした。

【地域交流・貢献】

羊3頭（子羊2、親）を飼育しふれあい広場を設置し癒しの場を提供した。その他の活動については、夏祭り、敬老会の中止等、新型コロナによる影響が非常に大きかった。

日付	内容	参加者数
4月20日～10月16日	羊の飼育とふれあい広場の提供	—
6月2日	第19回建部の地域づくりを考える会	11名
6月30日	第64回たてべ福祉を語る場	1名
8月26日	第65回たてべ福祉を語る場	1名
10月5日～2月16日	三方よし介護職員初任者研修	12名
10月26日	第66回たてべ福祉を語る場	1名
10月28日	認知症対応型通所介護運営推進会議	7名
11月24日	第1回社会福祉法人ラウンドテーブル	1名
12月10日	第67回たてべ福祉を語る場	1名
12月22日	第2回社会福祉法人ラウンドテーブル	1名
1月27日	第68回たてべ福祉を語る場	1名
2月17日	建部地区サロン支援交流会	1名
2月19日	竹鼻サロン支援	1名
3月11日	第69回たてべ福祉を語る場	1名

【新型コロナ発生時の応援事業への参画】

新型コロナ発生時応援事業の東近江地域事務局を務め、8回のコロナ禍会議（保健所、二市二町担当課、東近江介護サービス協役員）を継続して実施し、新型コロナウイルス感染症発生時の対応を進めた。

4. 年間行事等

4月	15日第1回経営会議	10月	16日入居者健康診断 20日、27日インフルエンザ予防接種 21日第7回経営会議 28日職員健康診断・ストレスチェック 第1回地域密着型介護運営推進会議(書面)
5月	20日第2回経営会議	11月	18日第8回経営会議 27日第1回総合避難訓練 (特養・ケアハウス) 20日認知症対応型通所介護実地指導
6月	9日監事監査 9日第1回理事会 11日R1年度下半期・総合評価者会議 17日第3回経営会議 19日消防設備機器点検① 25日第1回評議員会	12月	1日消防設備機器点検② 11日R2年度上半期評価者会議 16日第9回経営会議
7月	15日第4回経営会議	1月	1日年賀式 20日第10回経営会議
8月	19日第5回経営会議 カルナ納涼夏祭り⇒中止	2月	17日第11回経営会議 22日社会福祉学会オンライン参加
9月	16日第6回経営会議 カルナハウス敬老会⇒中止	3月	3日リクナビ就職説明会(2名) 10日夜勤者健康診断 17日第12回経営会議 24日第2回理事会 第2回地域密着型介護運営推進会議(書面)